

日本製紙クレシア（東京都千代田区、南里泰徳社長、03・6665・5300）は、家庭用ティシューの「クリネックス」スコッティブランドの家庭用製品を製造販売する。日本製紙グループの一員として環境重視の経営を推進。フェイシャルティシューやトイレットペーパーなどの生産を主力とする開成工場は、スクリーン式小型蒸気圧縮機などを導入し省エネルギーの取り組みを拡充する。日本製紙クレシアは全国4工場におけるエネルギー使用量を原油換算で月450㏩/ト（トンは生産した紙の重量）という目標値を設けている。開成工場は2013年度の年間平均使用

量が同456㏩/トと目標にわずかに届かず、省エネ対策が急務だった。工場では、これまで乾燥後に発生した120度C程度の蒸気ドレンを冷却水と

□5□

日本製紙クレシア



小型蒸気圧縮機を追加導入

の熱交換によって80度C程度まで冷やし、ボイラには60度Cから65度C程度で給水していた。ドレン化された廃熱は冷却水として捨てられ、温水にならなかつた蒸気（フラッシュ蒸気）は大気中に放出して捨てていた。

そこで13年夏、神戸製鋼所のスクリーン式小型蒸気圧縮機「スチームスター」を抄紙機1台に設置した。スチームスターはフラッシュ蒸気を昇圧させるなどして蒸気を再生する。工務部



工場内に設置した「スチームスター」

【事業所概要】▽所在地：神奈川県開成町吉田島500▽主要生産品目：ティシュー、トイレットペーパーなど▽年間エネルギー使用量：2万3169㏩（13年度）▽年間CO₂排出量：3万9148ト（13年度）

開成工場全体では、14年ターを取り付けた。大岩年度のエネルギー使用量（4工務部施設課課長代理は17月時点）が目標を下回「工場は開設から50年が経る月平均434㏩/トと推し、古い設備も増えている。7月は431㏩/トと過去最高の省エネ効果達成した。高井徹工務部長代理は「設備更新はチャンスでもある」と指視していく認識を示す。

大気放出蒸気の活用促進

施設課の金子純平主査は「熱を有効的に活用する手段としてマッチした」と導入の経緯を振り返る。最近ではインバータ

追求めた一連の取り組みにイプのエアコンプレッサーの導入や、抄紙機の駆動にかかる負担を軽減させるなどエネルギーコストの削減の削減効果が確認できている。省エネ効果を確認できたことから、今夏にはもう1台の抄紙機にもスチーム

（浅海宏規）